

名張市立病院 地域医療連携NEWS

〒518-0481 三重県名張市百合が丘西1番町178番地 Tel (0595) 61-1100

「がんサロン」は、がん患者さまやそのご家族が、日常のさまざまな悩みなどをもちより、誰でも気軽に参加していただける交流の場です。名張市立病院では、認定看護師や医療ソーシャルワーカーを中心に、医療サービスだけではなく、介護・生活支援等など、患者さまやご家族が抱える様々な問題を一緒に考え、専門的な支援が提供できるような「がんサロン」を目指し、取り組みを始めました。

「がんサロン」は2か月に1回の頻度で開催を予定しています。患者さんとご家族がリラックスしてお話しできる場所、ほっと一息つける場所、悩みを打ち明けられる場所にしていきたいと思っています。詳しい内容については、ホームページやLINEなどで発信しています。皆さまのご参加をお待ちしております。

名張市立病院 がんサロンを開設しました

令和4年5月25日（水）に第1回がんサロンを開催しました。がん専門の認定看護師が同席し、「医師や看護師とのコミュニケーションでの不安や困りごと、工夫していること」をテーマに意見交換を行いました。日常生活のことや趣味のこと、それぞれの体験談をお話ししたり、情報交換などを通して、交流を図ることができました。

7月20日（水）に開催した第2回のがんサロンでは、がん病態栄養専門管理栄養士を招き、「栄養・食事について」をテーマにお話していただきました。抗がん剤の治療中の方、治療後の方、またそのご家族さんも参加していただき「食事で困っていること」「食事で工夫していること」などについてお話ししていただき、管理栄養士からアドバイスをを行いました。

参加者それぞれが、がんの診断を受けたときからこれまでの経験を語り合ったり、日々の過ごし方や人生の楽しみ方などをお話しし、参加者のみなさんからは、「初めての参加でドキドキしていましたが、アットホームで親しみのある会でホッとしました。」「前向きに明るく生きようとされている方のお話を聞いて、自分も強くなりたいと思いました。」「勇気づけられることもあり、いろんな方との縁を感じることができました。」とおっしゃっていただきました。

次回は、9月28日（水）を予定しています。



【がんサロン担当看護師より】

参加者それぞれにお互いの思いを話し合うことができました。また、体験談を語り合い、しみじみと共感したり、驚きや新しい発見があったりと、参加された方からも「有意義な時間を過ごすことができた」とおっしゃっていただきました。私たち認定看護師は「ケアは患者さんから教わるもの」と考えています。今回のサロンで患者さんとご家族の率直な思いを知ることができ、改めて患者さんのお話をしっかりと聞くこの大切さを学ばせていただきました。

がんサロンに関わる認定看護師



がん性疼痛看護認定看護師

加藤 いずみ

がんによる、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな痛みを総合的に判断し、個別的なケアを提供します。患者さまやご家族が、薬剤を適切に使用でき、薬物以外でも痛みを和らげられるようサポートします。



緩和ケア看護認定看護師

田中 利恵

その人らしさを大切に、人生を生きるために寄り添い、共に考え、患者さんとご家族の様々な困りごとに対応いたします。対話を通して大切な価値観や希望を理解し、安心して過ごすことができるように医療チームと協力して支援します。

コロナとの戦いが始まって、もう3年になります。名張市立病院職員のコロナとの奮闘を、市民の皆さんと共有し、いつかこの奮闘が終わることを心から願って、私たちの日々の記録をホームページで公開しています。

コロナ奮闘記 No.1

令和2年1月、民間客船での新型コロナウイルス

ス感染症に関する報道を、日本国内のニュースでありながら、遠くの出来事のように聞いていたのが一転し、同年4月から当院は感染者を受け入れることになりました。感染症専門医と、感染管理認定看護師が中心となり、感染者の受け入れ体制や、感染予防対策を整え、自治体病院に勤務する看護師（医療従事者）としての使命感のもと、この感染症との闘いが始まりました。

受け入れ病棟の看護師をはじめ、すべての看護師とご家族がどれほど大きな不安と、葛藤を抱いたか、はかり知れません。自分自身が勤務しようと思っけていても、「同居の家族に感染させてしまうのではないか」という戸惑いや、「コロナ病棟に勤務しないでほしい」という家族の言葉など、板挟みの状況に日々悩んでいました。さらに、小さな子供がいる看護師は、「子供が差別を受けるのではないだろうか」と、辛い思いに苦しみながら勤務していました。

また、この感染症は一番大切な「人との繋がり」を遠ざけ、入院患者様とご家族の時間を容赦なく奪いました。「最期の時」でさえも・・・やむを得ない面会制限により、患者様の傍で看取することも出来なかつたご家族の涙を見ながら、どうする事もできない悔しさに苦しむこともありました。それでも看護師は、今まで当たり前とされていた看護の在り方を覆される状況になつても、可能な限りタブレット面会や電話説明など、新たな対応に切り替え、少しでも患者様とご家族の時間を過ごせるよう工夫してきました。そして、そのスタイルがいつしか当たり前前に置き変わりました。このように、私たち看護師は、どんな時も患者様とご家族への姿勢を変えることなく向き合ってきました。

第2波、第3波と、次々に感染の波が押し寄せ、防護服を着用し、数分で汗だくなる真夏、検査の容器を持つ手も凍える真冬を越え、2年が過ぎました。今も早朝から、正面玄関や駐車場でトリアージや検査に、看護師や病院職員が奮闘しています。第6波の感染力は、多くの社会活動を止め、病院の従事者やその家族にも容赦なく押し寄せ、今もなおマンパワーをさらっています。多くの市民の方が不安にさらされる日が続く中、ワクチン接種もウイルスの勢いと競い合うように続いています。

環境が大きく変化する状況の中、私たち看護師は、「患者様やご家族の心や身体が少しでも元気になって頂けること」をこれからも変わらない目標として、最前線で様々な困難に立ち向かっていきます。いつかマスクに隠されない素晴らしい笑顔いっぱいの社会、暮らしを取り戻し、コロナ時代を駆け抜けた日々を思い出話にできる日が来ることを願い、これからもコロナと向き合い、どんな波も乗り越え、市民の皆さまのために闘っていきます。

マスクを取って笑顔で話せる日を願って・・・



当初の保健所との合同訓練



日々の病棟での奮闘の風景



コロナの奮闘はワクチン接種や駐車場で検査など様々



新型コロナウイルスと奮闘 名張市立病院の軌跡

新型コロナウイルスが発生し、帰国者接者外来を設置してからの2年6ヶ月。名張市立病院は、スタッフが一丸となって、未知なるウイルスに立ち向かってきました。

名張市立病院のこれまでの取り組みについてご紹介します。

	診療体制の整備状況	院内の取り組み	
令和2年	3月	帰国者接触者外来を設置	
	5月	陽性患者受入れ病床の整備（6床体制） 「アビガン錠」院内採用 簡易陰圧装置、人工呼吸器の整備	
	7月	一般外来に発熱外来設置	入院患者面会制限
		陽性患者病床を8床に拡大 陽性患者の受入れ開始	
8月	「バクルリー」院内採用	正面玄関で健康チェックの開始	
12月	院内迅速検査を開始		
令和3年	2月	陽性患者病床を16床に拡大	
	3月		医療従事者ワクチンの開始
	4月	発熱患者用診察室設置（外来3・救急外来1） コロナ診察用CTの導入	入院患者全例PCR検査開始
	5月	「オルミエント錠」院内採用	
	6月	高流量酸素療法（ネザルハイフロー）を増設（計7台）	自費PCR検査の開始
	8月	「ロナプリーブ注射液セット」院内採用	
	9月	陽性患者病床24床に拡大（臨時的対応10月まで）	入院患者オンライン面会開始
外来カクテル療養の開始			
12月	全自動免疫測定装置「HISCL-5000」を設置し抗原定量検査の開始 「セビュディ点滴静注液」院内採用 「ラゲブリオカプセル」院内採用		
令和4年	2月	小児陽性者のオンライン診療開始 「パキロビッドバック」院内採用	
	3月		医療従事者の思いを伝える「コロナ奮闘記」を開始
	8月	陽性患者病床24床に拡大（臨時的対応）	小中学生に「コロナの先に」をテーマにした絵画・ポスター募集

院内の風景



陰圧 TENT を設置し、疑い患者の診察を開始しました。

入院対応は病棟をゾーニングし6床からスタート。現在は最大24床体制です。



「持ち込まない。広げない。」を合言葉に正面玄関トリアージを開始

PCR迅速検査は現在は5台体制。抗原検査も併せ、ひと月の検査は2000件を上回ります。



待望の医療従事者ワクチン接種を開始。以後、高齢者から小児まで拡充。



屋外に設置した診察室は、発熱患者などの診察や検査の専用ブース

当院の治療について

新型コロナウイルス感染症は治療薬もワクチンもないところからスタートでした。受入れ当初は、治療法も未確立で重症化する方が散見され、こうした対応や3次病院との連携に追われていました。また、小児RSウイルスの流行が重なったときには、小児にも使用可能なネザルハイフローを追加購入しコロナ治療と共に対応してきました。

治療薬に関しては、いち早くバクルリーやラゲブリオ、ロナプリーブなどの院内採用に努めてきました。現在は、基礎疾患のある方や高齢の方に対して早期投与を行い、重症度に応じてステロイド・オルミエント・抗凝固薬を使用し治療にあたっています。

第7波は感染者数が激増し、基礎疾患を抱える方や高齢の方の入院数の増大に加え、自宅療養の方の症状悪化の対応など、病院に求められる形も変わってきています。抗ウイルス薬の外来処方も可能になり、当院でもオンライン療も活用し伊賀保健所と連携し自宅療養者の診察も取り組んでいます。

感染症科医長 今井 雄一郎

新型コロナウイルス対策を振り返る

新型コロナウイルス感染症の受入れがはじまり2年半がたちました。陰圧TENT1台の診療からはじめ、医療機器や診療体制を拡充し、現在は入院で最大期に24床の体制を整え、発熱診察室や救急外来への受入れ、感染拡大期にも十分に対応できる検査体制も整え、その一方で一般診療、救急医療も継続できるよう取り組んでまいりました。感染は、拡大と縮小を繰り返し、常に私たちの予想を超えてやってきます。第7波は、これまで経験したことのない新規感染者数が報告され、名張市においても、多くの自宅療養者が不安な日々を送られています。当院においても職員や家族の感染に伴うスタッフ不足が医療の逼迫の要因として大きな問題となっています。

長引く戦いですが、多くの方から感謝のお言葉や、様々な支援もお寄せいただき職員の励みになっています。コロナ終息の日を願って、引き続き、公立病院としての使命を果たすべく職員一同努力してまいります。

病院長 藤井 英太郎



当院の連携医療機関をご紹介します

当院では、日常的な予防や治療は「かかりつけ医」で診察していただき、入院や専門的治療が必要となった場合に当院にご紹介いただく地域の機能分担を推進しています。

医療法人 森岡内科クリニック



リラックスできる無垢の木を使用した待合

皆様こんにちは。当院は1980年に開業しました。そして2014年5月に建物をリニューアルし、全て無垢の木を使用した木の香りが漂うクリニックに仕上がりました。今年で開業して42年目を迎えます。当院では開院時より糖尿病専門医として糖尿病診療に携わるほか、高血圧症や脂質異常症など生活習慣病を中心に診療を行っています。現在はコロナ禍で残念ながら開催が困難なのですが、月1回の糖尿病教室や、患者さんおよび御家族さん達との調理実習+食事を年2回開催しています。患者さんがご自身の糖尿病をはじめとする生活習慣病と付き合っていくことは、医学的な理屈通りにいくような単純なものではありません。だからこそ当院では「患者さんが疾患を持ちながらも、患者さんが大切にする価値に沿った人生の実現」をめざし、スタッフ全員で試行錯誤しながら患者さんの療養のサポートにあたっています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

診療科目

内科、糖尿病・代謝内科

住所

名張市丸之内3番町13

TEL 0595-63-0003

診察時間 午前9時～正午 午後4時～午後7時

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

※休診日 木曜午後・土曜日午後・日曜・祝日

メディ☆ナバ

あれこわい ちょっと知っとこ 健康チャンネル

今起きている健康問題や高齢化に伴った健康維持などをテーマに、当院の医師や看護師等が、市民の皆さまに医療情報を3カ月毎に発信しています。

R4年7月
放送終了

第7回

変形性膝関節症

当院の整形外科専門医が、変形性膝関節症の症状や原因、治療方法までわかりやすくお伝えしています。

出演：整形外科専門医
上田 幸広 先生



第8回

熱中症

R4年8月
から放送

当院の総合診療専門医が、熱中症の症状をわかりやすく解説しています。また、みなさまから寄せられた熱中症への素朴な疑問にも軽妙なトークでお答えしています。

出演：総合診療専門医
笹本 浩平 先生



過去もチャンネルも当院の
ホームページやYouTubeから
ご覧いただけます。

URL <https://nabari-city-hospital.jp/?>

